

■ 概況

9/19~9/25のNYMEX・WTIは、56.49~58.64ドルの範囲で推移した。

9月26日は、サウジへの米軍増派の発表で買い戻されたものの、サウジ石油施設の復旧の迅速さ、前日のEIAによる米国の原油在庫の増加報告など、需給緩和懸念による売りで、小幅ながら3日続落した。11月限終値は前日比0.08ドル安の56.41ドル。

週末27日は、サウジとイエメンのフシ派の部分停戦観測やイランのロウハニ大統領による「交渉に応じれば米国は制裁を解除する」との仏英独首脳発言の紹介など、イランをめぐる地政学リスクの後退で4日続落した。ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は713基で前週比6基減、6週連続の減少。11月限終値は前日比0.50ドル安の55.91ドル。

週明け30日は、サウジ石油施設の復旧が順調で、既に990万b/dの生産水準を回復したとのアラムコ・トレーディング部門幹部の発言、中国の弱気な景況指数(PMI)の発表もあって、大幅に5営業日続落した。11月限終値は前週末比1.84ドル安の54.07ドル。

10月1日は、米製造業景況指数は8月を下回り、10年ぶりの低水準であったため、米国経済の先行き懸念が広がり、6営業日続落した。ただ、ドル安・ユーロ高に伴う原油先物の割安感や安値拾いの買いが下値を支えた。11月限の終値は前日比0.45ドル安の53.62ドル。

2日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比310万バレル増と市場予想を上回る、3週連続の増加、また、米国民間雇用統計が振るわなかったことから、続落した。11月限の終値は前日比0.98ドル安の52.64ドル。

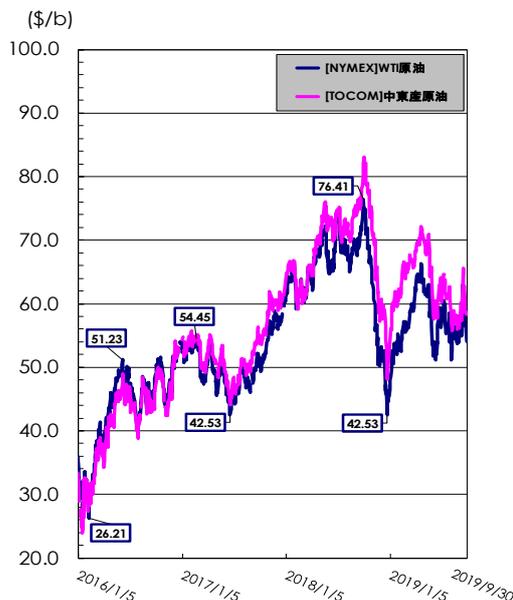
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は9月19日~25日の間61.90~63.90ドルの範囲で推移した。9月26日61.70ドル、27日61.60ドル、30日61.40ドル、10月1日58.30ドル、2日58.70ドルで推移した。

為替は9月19~25日の間107.11~108.43円の範囲で推移した。9月26日107.73円、27日107.84円、30日107.92円、10月1日108.19円、2日107.71円で推移した。

財務省が9月27日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月上旬の原油輸入平均CIF価格は、43,687円/klで、前旬比1,188円安、ドル建て65,347円で前旬比1.98ドル安。為替レートは1ドル/106.29円だった。

そのような中で、9月30日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.6円の値上がり、軽油は同1.5円の値上がり、灯油は同13円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに2週連続の値上がりだった。この週(9月第5週)の原油コストは値下がり、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値下げとなった。

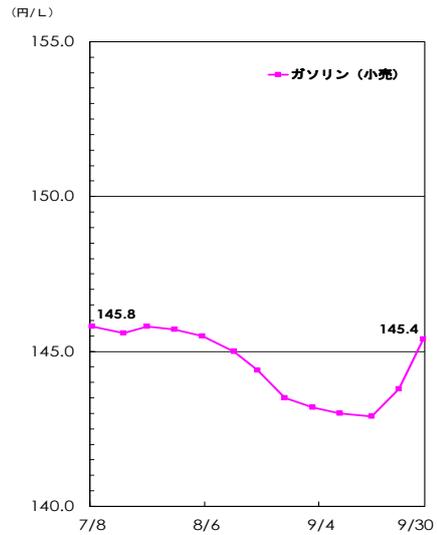
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/22 ~ 9/28	3,300 ▲ 98	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.3 ▲ 2.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/28	11,766 ▼ -425	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/30	58.33 ▼ -2.28	▼ -21.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/30	54.07 ▼ -4.57	▼ -21.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	65.34 ▼ -1.98	▼ -10.70
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	43,687 ▼ -1,188	▼ -9,464
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.29 ▼ -0.32	▲ 4.84
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/30	108.92 ▼ -0.23	▲ 6.00



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/22 ~ 9/28	931 ▼ -48	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	887 ▼ -68	▲ -	
	輸出	"	72 ▼ -19	▼ -	
	在庫	9/28	1,501 ▼ -28	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/24 ~ 9/30	59.9 ▲ 1.1	▼ -11.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/24 ~ 9/30	54.5 ▼ -3.9	▼ -17.2
		(TOCOM/中部)	9/30	55.8 ▼ -4.5	▼ -15.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/30	145.4 ▲ 1.6	▼ -9.8	

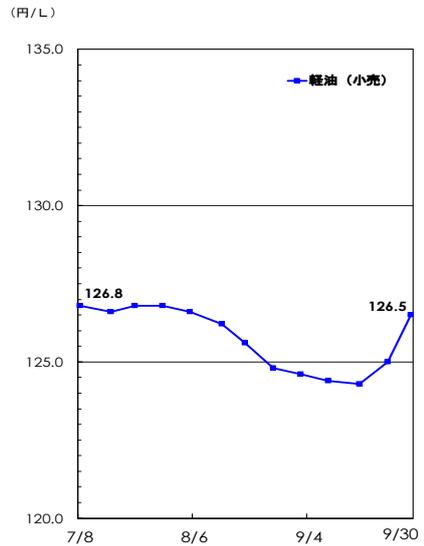
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

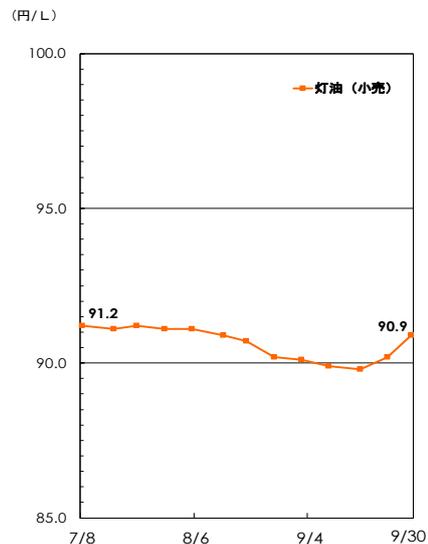
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/22 ~ 9/28	842 ▲ 58	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	694 ▲ 14	▲ -	
	輸出	"	183 ▼ -24	▲ -	
	在庫	9/28	1,448 ▼ -35	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/24 ~ 9/30	62.3 ▲ 1.7	▼ -10.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/24 ~ 9/30	62.7 ▲ 1.6	▼ -9.0
		(TOCOM/中部)	9/30	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/30	126.5 ▲ 1.5	▼ -7.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/22 ~ 9/28	180 ▲ 23	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	116 ▼ -50	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	9/28	2,573 ▲ 64	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/24 ~ 9/30	62.1 ▲ 1.4	▼ -10.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/24 ~ 9/30	58.4 ▼ -1.6	▼ -15.9
		(TOCOM/中部)	9/30	60.0 ▼ -1.5	▼ -14.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/30	90.9 ▲ 0.7	▼ -4.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月2日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比310万バレル増と市場予想(同160万バレル増)を上回る3週連続の積み増し報告があり、また、米国民間雇用統計が振るわなかったことから、需給緩和懸念が広がり、続落した。11月限の終値は前日比0.98ドル安の52.64ドル、12月限の終値は前日比0.99ドル安の52.51ドル。

EIAによると、9月30日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.2セント値下がりの1ガロン2.642ドル(75.9円/ℓ)、

ディーゼルは同1.5セント値下がりの3.066ドル(88.1円/ℓ)となった。ガソリンは3週ぶりの値下がり、ディーゼルも3週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年9月22日～9月28日に休止したトッパー能力は31.0万バレル/日で、前週に対して5.1万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は330.0万klと、前週に比べ9.8万kl増加。前年に対しては0.5万klの増加。トッパー稼働率は84.3%と前週に対して2.5ポイントの増加、前年に対しては0.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリンが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.9%減、ジェット/9.2%増、灯油/14.3%増、軽油/7.4%増、A重油/0.4%増、C重油/13.2%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は18.3万kl(前週比2.4万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、軽油が増加となり、その他の減少となった。ガソリンの出荷は88.7万kl(対前週7.2%減)と4週振りで減少となり、6週連続で100万klを下回った。ジェット6.6万kl(対前週59.5%減)、灯油11.6万kl(対前週30.6%減)、軽油69.4万kl(対前週2.1%増)、A重油19.9万kl(対前週23.1%減)、C重油14.6

万kl(対前週26.9%増)。

(単位:千KL)

	今週 (9/22 ~ 9/28)	前週 (9/15 ~ 9/21)	前週比
ガソリン	887	955	▼ -68 (-7%)
ジェット燃料	66	164	▼ -98 (-60%)
灯油	116	166	▼ -50 (-30%)
軽油	694	680	▲ 14 (2%)
A重油	199	259	▼ -60 (-23%)
C重油	146	115	▲ 31 (27%)
合計	2,108	2,339	▼ -231 (-10%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月28日時点の在庫は、灯油、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、灯油、A重油が積み増しになり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは150.1万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては12.3万kl少ない。

灯油は257.3万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては5.3万kl多い。

軽油は144.8万kl、前週差3.5万kl減。前年に対しては15.9万kl少ない。

A重油は69.1万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては0.9万kl多い。

C重油は189.7万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては18.1万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (9/28)	前週 (9/21)	前週比
ガソリン	1,501	1,529	▼ -28 (-2%)
ジェット燃料	806	829	▼ -23 (-3%)
灯油	2,573	2,509	▲ 64 (3%)
軽油	1,448	1,483	▼ -35 (-2%)
A重油	691	675	▲ 16 (2%)
C重油	1,897	1,909	▼ -12 (-1%)
合計	8,916	8,934	▼ -18 (-0.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月24日～30日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、9月24日～30日の間、ガソリン113～114円台で値上がり後やや値下がり、軽油60～63円台で大きく値上がり後値下がり、灯油61～62円台で出入り後値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114円台で小刻みに動き値下がり、軽油63～64円台で大きく値上がり後や

や値下がり、灯油56～58円台で大きく値下がり後ほぼ横ばいで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン107～109円台で大きく値下がり後値上がり、軽油62～63円台で値上がり、灯油58～59円台で大きく値下がり後ほぼ横ばいで推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社2.0円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月24日～30日の製品スポット市況は、9月17日～23日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物、灯油の海上を除いて、値上がりした。

直近の陸上スポット価格(9/24～9/30千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は1.4円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は1.5円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが3.9円の値下がり、灯油は1.6円の値下がり、軽油は1.6円の値上がりだった。

10月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値下げとなった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (9/24～9/30)	前週 (9/17～9/23)	前週比	
レギュラー	59.9	58.8	▲	1.1
灯油	62.1	60.7	▲	1.4
軽油	62.3	60.6	▲	1.7

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値]	今週 (9/24～9/30)	前週 (9/17～9/23)	前週比	
レギュラー	54.5	58.4	▼	-3.9
灯油	58.4	60.0	▼	-1.6
軽油	62.7	61.1	▲	1.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/24～9/30実績値)				(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均		
ガソリン	▲ 1.1	▼ -3.9	▼ -1.4		
灯油	▲ 1.4	▼ -1.6	▼ -0.1		
軽油	▲ 1.7	▲ 1.6	▲ 1.6		
A重油	▲ 1.3				

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.6円高の145.4円、軽油も同1.5円高の126.5円、灯油は18ℓベースで同13円高の1,637円(1ℓベースでは同0.7円高の90.9円)。ガソリン・軽油・灯油ともに、2週連続の値上がり。都道府県別には、値上がりが全47都道府県、横ばいと値下がりはない。全国最安値は滋賀県の139.2円(前週比1.9円高)、その次は、埼玉県(同2.7円高)の140.3円、最高値は長崎県の155.3円(同0.3円高)。最も値上がりしたのは3.9円高の神奈川県(144.5円)。

先週の原油コストは大きく値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.5円～2.5円の

値上げに分かれた。今週は、原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値下げとなった。ただ、次週(10月7日)のガソリンの小売価格は、消費税引き上げ、転嫁不足分の値上がりもあり、小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)			
[週動向]	今週 (9/30)	前週 (9/24)	前週比	直近高値	
レギュラー	145.4	143.8	▲ 1.6	08/8/4	185.1
灯油	90.9	90.2	▲ 0.7	08/8/11	132.1
軽油	126.5	125.0	▲ 1.5	08/8/4	167.4

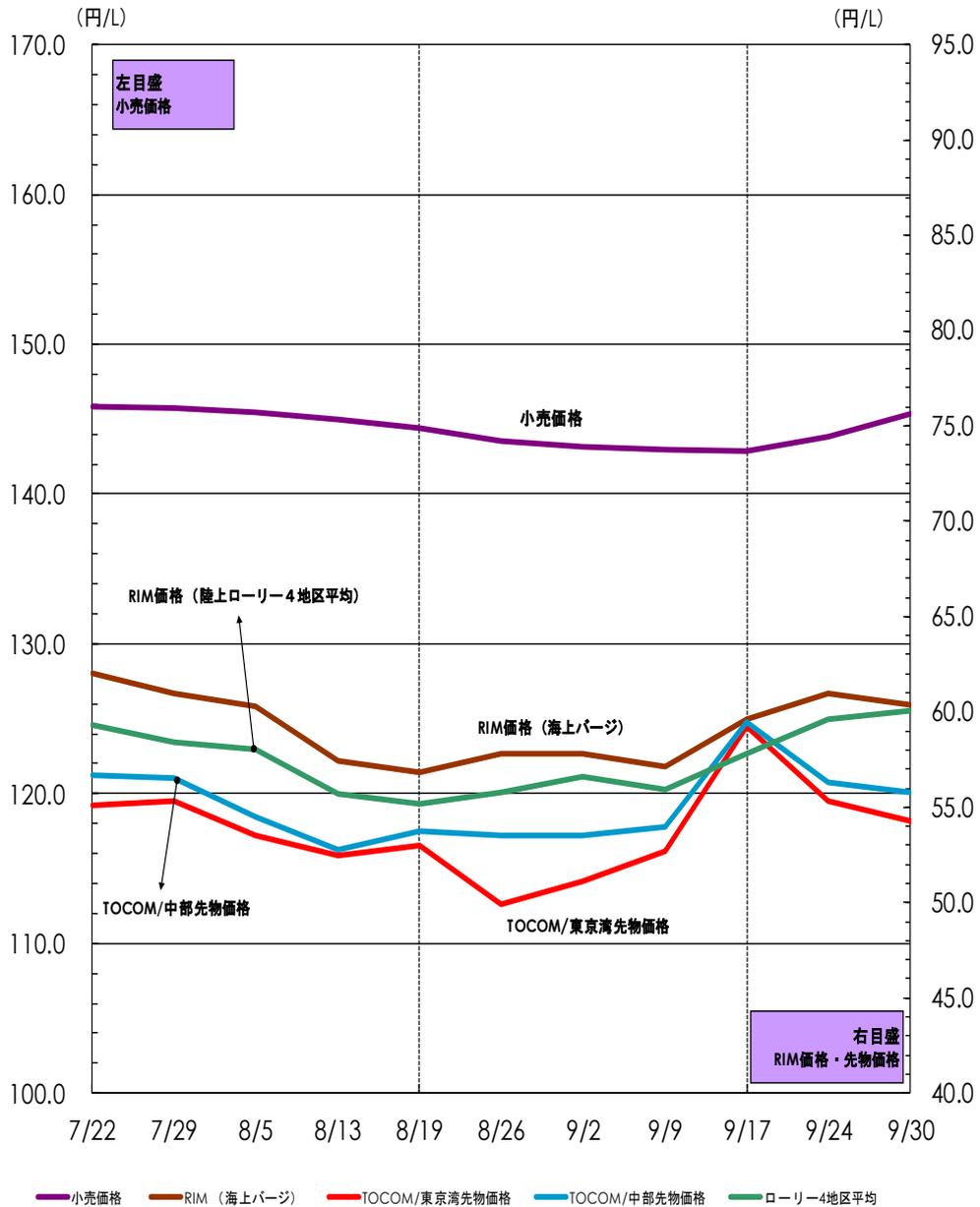
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/7/22 ~ 2019/9/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第26号)の公表は、10/11(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。